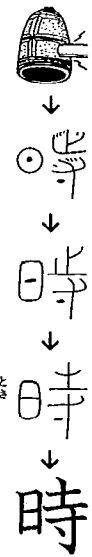


# 時

三年  
画数 10  
筆順 叶 咄 時  
オン シ  
クン トキ

成の立方



むかしは、お日さまのうごきで「時」をはかりました。日の出を「あけ六つ」といい、日の入りを「くれ六つ」といい、このあいだを六つにわけました。だから「一時」はいまのおよそ二時かんにあたります。

六時ごろが「六つ」、八時ごろが「五つ」、十時ごろが「四つ」、十二時ごろが「九つ」、二時ごろが「八つ」、四時ごろが「七つ」です。

お寺では、お日さまのうごきを見て、一日に六かい、かねを時のかずだけついて人びとにしらせました。お寺とお日さまとで「時」をあらわすわけです。

「時の「寺」は「基準」の意味で、「日」を基準として定めた「時」を表したものである。」

### 使い方

▽このもんだいをとくには、ずいぶん時間が、かかった。  
▽おとうとが「いま、なん時？」と、きいたので、「いま、十二時だよ」と、おしえてやりました。

▽むかしから「時はかねなり」といって、時というものは、おかねとおなじくらい、いえ、それいじょうに、たいせつなものです。おかねは、なくしても、また、かせげばいいのですが、いちどうしなつた時は、もう二どと、もどってきません。

### 熟語例

- ▽時刻(時の、あるいつてん。「しゅうこう時刻は、ごぜん九時です」などといいます。)
- ▽時間(時と時の間。ただし、今では「時間」は「時刻」とおなじいみにつかわれることがあります。「時間におくれてしまった」などというぐあいです。)
- ▽時期(時。おり。「まだ時期が早い。もうすこし、またほうがいいとおもう」などというふうに、つかいませう。)
- ▽時報(時刻のおしらせ)
- ▽時計。時雨。

# 室

二年  
画数 9  
筆順 宀 宀 宀 室  
オン シツ  
クン ムロ

成の立方



そらをとんでいた「とり」が、じめんにおりつこうとしていたすがたをあらわした字で、「至りとどまる」といういみの「至」と、家のいみの「宀」とをくみあわせてつくった字です。

「人が至りとどまる家」といういみの字で、人がおちついてやすむ「へや」のことをあらわした字です。

「へや」とは、家の中をいくつかにわけたものの一つのことです。

「むろ」は、「小屋」といういみのふるいことばで、むかしから「室」の字でこれをあらわしました。

### 使い方

▽「教室では、しずかにして、さわがないこと」と、先生がおっしゃいました。ぼくは、いつも教室でふざけているので、「しまった」と、おもいました。教室は、べんきょうをするところなのだから、ほんとうにしずかにしていなければいけないと、はんせいしました。かぜをひいたので、おかあさんにつれられて、びょういんにいきました。診察室に入ると、やさしそうなおいしやさんが、「どうしたの」と、ききました。診察室の中は、しょうどくやくのにおいがしていました。

### 熟語例

- ▽室内(へやの中。㊦「屋外」。「室内プールで、およぎました」などといいます。)
- ▽浴室(おふろばの、あらたまつたいいかたです。おゆを浴びるので「浴室」と、いいます。)
- ▽寝室(寝るためのへや。日本では、トクベツに寝室をもうけているところは、すくないでしょうが、アメリカや、ヨーロッパなどでは、寝室があります。)
- ▽氷室(氷を入れておく小屋のこと。)